

ザンビアダイアリー



日本へ帰国！ 私のクロスロード「やりがい曲線」

活動 内容

- ①算数の授業で子どもたちに教える。 ②子どもたちが様々な体験をできる教室を開く。

最初の1ヶ月は全クラスの全教科の学習の様子を見学しました。そこで気づいたことに取り組もうと思っていました。英語でスラスラと話すことができず、悔しい思いを感じていました。関係づくりのために、現地語も進んで勉強しました。



ザンビアの先生が授業を進め、私は個別に指導してまわる形で、できない子どもを助けてきました。教科の学び以外にも、これまで紹介してきた様々な体験ができる教室を開きました。子どもたちや先生たちと関係が築けてきた実感がありました。



学校と地域のつながりやキャリア教育を考え始め、村の人たちと積極的に関わり関係を築くことにより努めました。自分の体験教室に村の人をゲストとして協力してもらうことに取り組み始めました。



活動始め

6ヶ月

9ヶ月

15ヶ月

18ヶ月

20ヶ月 (コロナのため帰国)

5年生の算数で個別に指導したり、体育の授業をしたりしました。自分中心の言動をとる子どもたちが多く、まとめることが大変でした。もっと先生たちと協力したいという思いも感じました。学びで大事な子どもの興味や関心を高めることで貢献したいと思い始めました。



算数の個別指導も、体験教室も軌道に乗ってきた感じがありました。一見すれば、私も子どもたちも楽しくやっているように見えたが、もう少し子どもたちの学力に貢献したいと考えました。そこで、放課後に補習教室を開く形で、授業で終えられなかった問題や宿題を助けてました。



村の看護師や技術者などを招待して話を聞く教室を予定していましたが、実現できませんでした。しかし、こういった取り組みが可能であることを実感しました。帰国後は校長先生や算数の先生、村のマーケットの人と連絡を取り続けることができているのも成果かなと思っています。



発行：JICA 海外協力隊 大澤 明浩

2018年7月～2020年7月 チャールズルワンガ初等学校/ モンゼ/ ザンビア共和国

次回は最終号『日本へ帰国！②』を紹介します。